

「おはなしメリーゴーランド」試作品完成

紙芝居授業は大好評

埼玉県と山口県でオリジナル紙芝居『まつりのひ』を用いた道徳のモデル授業を実施しました。

「まつりのひ」とは…津波で大打撃を受けた村を舞台に、祭りを通して主人公たちが支え合いながら成長していく物語

■授業開催日

11月1日 山口県周南市立沼城小学校3年生

11月5日 埼玉県新座市立東野小学校3年生
および教員向け事後研究会

講師：馬場喜久雄[全国小学校道徳研究会顧問]

沼城小学校の授業では、住んでいる町のためにしていることは何？という問いかけに、子どもたちが「八朔祭りのお手伝い」と答えてくれました。大人がよろこんでくれる → お祭りが盛り上がる → 町のためになる、というこれまでにない発想に、参観された先生方だけでなく、たくさんの授業を見てきた馬場先生も驚いていました。

教員対象の研究会も実施

東野小学校では約30名の先生方が授業を参観。放課後には事後研究会も行われ、授業での紙芝居活用法やその効果を馬場先生が解説しました。

オリジナル紙芝居への質問も出るなど先生方の関心も高まり、今後、授業で紙芝居が活用されることが期待されます。



馬場先生(左)が紙芝居の引き方をレクチャー

これまで運動本部では、小学生を対象に紙芝居を活用
その中で、「子どもの豊かな心を育むには、幼児期
そんな声にこたえるべく、平成29年
関東近郊の幼稚園や保育
さらにその内容をもとに幼児に日常で大切な
このたび「おはなしメリーゴーラ

用した道徳授業などの活動を行ってきましたが、
から」という声をたくさんいただきました。
度より幼児向け新企画の準備を進め、
園などでヒアリングを実施。
心を学んでもらえるツール作りに取り組み、
ンド」の試作品が完成しました。

試作品を子どもたちの前で披露

■実演日

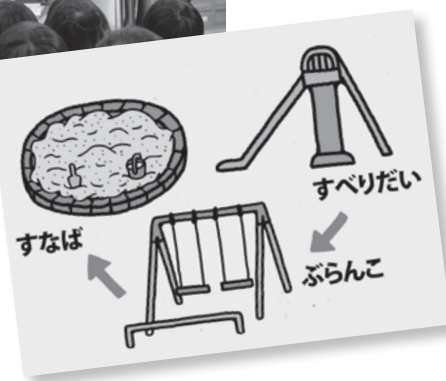
12月13日 杉並区立高井戸西子供園(東京都)
うさぎ組／4歳児

実演：山口優香先生
内容：『落としもの編』



山口先生が試作品
を実演。すっかりハ
ナちゃんは子どもた
ちの人気者。

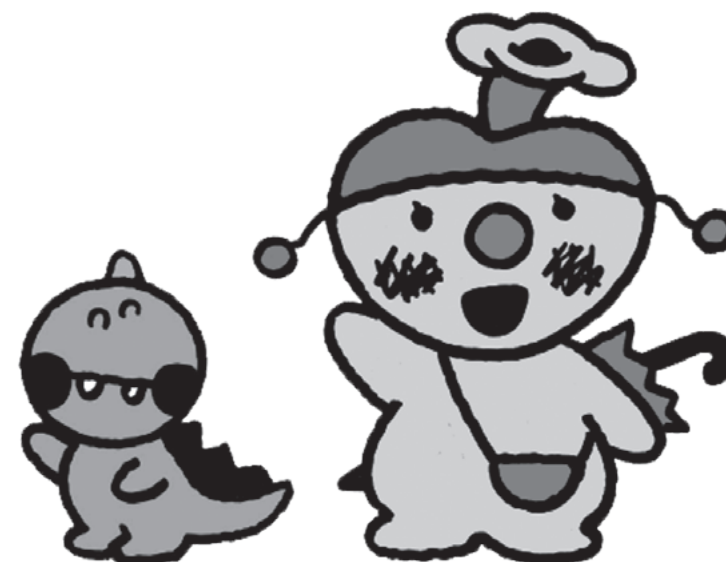
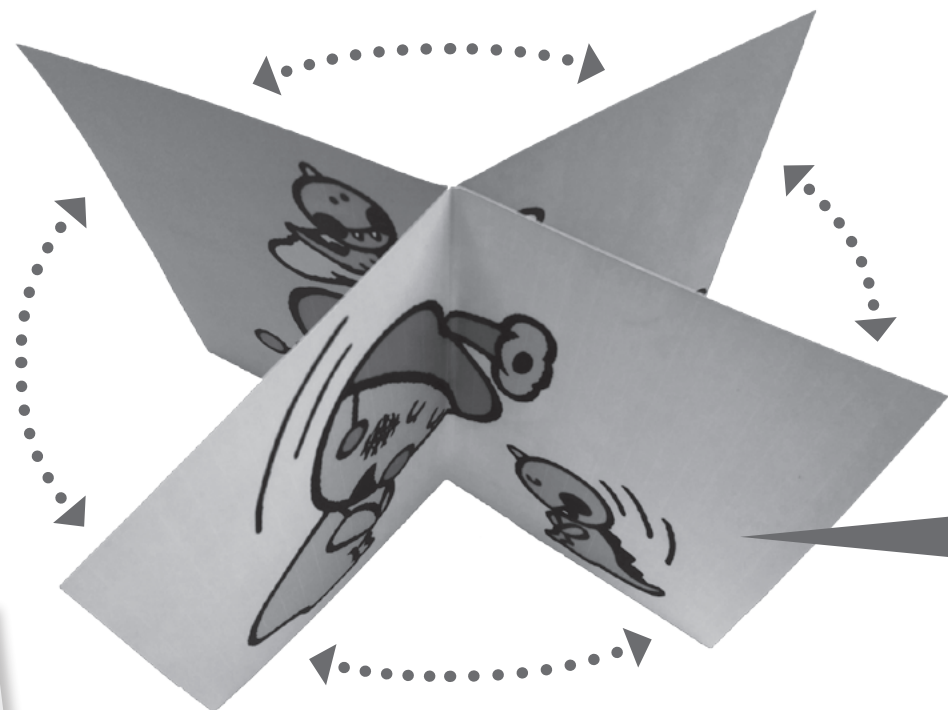
子どもたちは矢印
を見て、なくしもの
は「すなばにある!」
とすぐにわかってし
まったようです。



初めて、「おはなしメリーゴーランド」を子供園の4
歳児クラスで披露しました。この日のおはなしは、
ハナちゃんがなくしたものをアカチンと一緒に探す、と
いうもの。

4場面ですが、「少ないからこそ子どもたちが発想
しやすく、自由におはなしを考えられるところがとても
いい」と先生方からは好評で、子どもたちも場面を見て、
感じたことをどんどん話してくれました。とはいえ、や
はりこうした方がいい、という点も。

この試作品実演をもとに、改良を加え、完成を目指し
ます。



ハナちゃんとアカチン ©SHINOBU ARIGA

〈アカチン〉
恐竜の赤ちゃん。…名前は
ダジャレじゃないよ。

〈はなのほら ハナちゃん〉
通称ハナちゃん。

「おはなしメリーゴーランド」って何？

何

気ない日常の場面から、あいさつの大切さ、お友
達と仲良くすることなどを学んでほしいと作った
のが、「おはなしメリーゴーランド」。子どもたちが自由
に発想を広げられるように、4場面をくりと回転させ
てメリーゴーランドのようにおはなしが進みます。

監修とイラストは、NHK「おかあさんといっしょ」で
人気を博した“こんなこいるかな”の生みの親で、幼児
教育専門家でもある有賀忍先生(板絵画家、江戸川大学
客員教授)にお願いしました。



4コマのひとつ。あいさつの大切さを伝えます。

子どもたちの分身です

「おはなしメリーゴーランド」作りの中で、有賀先生
は、子どもたちにおはなしをより身近に感じても
らなければならぬ。そのためには自分の分身のような存
在が必要なんだよ、とおっしゃいました。

そこで誕生したのが、オリジナルキャラクターの“ハ
ナちゃん”と“アカチン”。

ふたりの日常を描いたおはなしで、子どもたちに、「自
分ならどうするかな」を考えてもらいます。

※カラーで「おはなしメリーゴーランド」をご紹介しますので、P.17をご覧ください。